

令和元年度 大田区立入新井第二小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

学校規模…児童数 588名 学級数 18学級 サポートルーム(特別支援教室)拠点校
 目指す学校像…学力・心・身体がバランスよく成長している健康な子供が育つ学校
 校内研究テーマ…基礎基本を大事にして 確かな理解をめざす～国語科におけるユニバーサルデザインと個別の支援の視点を取り入れた授業づくり～

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標
プラン1 生きる未来社会を創造的に生	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にシなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4: タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が80%以上。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	3: タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が75%以上。
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	2: タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が60%以上。
			1: タブレットを使って、授業で知りたいことを調べることができるという3年生以上の児童が60%未満。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4: 3学期のベーシックドリルの2～6年生の平均正答率が全学年で80%以上。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3: 3学期のベーシックドリルの2～6年生の平均正答率が4学年で80%以上。
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2: 3学期のベーシックドリルの2～6年生の平均正答率が3学年で80%以上。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1: 3学期のベーシックドリルの2～6年生の平均正答率が3学年で80%未満。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 児童アンケートで、自分は学校や学級や家庭や地域で、役立つことができているという肯定的評価が90%以上。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3: 児童アンケートで、自分は学校や学級や家庭や地域で、役立つことができているという肯定的評価が80%以上。
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2: 児童アンケートで、自分は学校や学級や家庭や地域で、役立つことができているという肯定的評価が60%以上。
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1: 児童アンケートで、自分は学校や学級や家庭や地域で、役立つことができているという肯定的評価が60%未満。
プラン4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: マラソン強化月間において、95%以上の児童がマラソンカードの1枚目を達成できる。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	3: マラソン強化月間において、85%以上の児童がマラソンカードの1枚目を達成できる。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	2: マラソン強化月間において、70%以上の児童がマラソンカードの1枚目を達成できる。
			1: マラソン強化月間において、70%未満の児童がマラソンカードの1枚目を達成できる。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4: 保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」に肯定的評価をした保護者が90%以上。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3: 保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」に肯定的評価をした保護者が75%以上。
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2: 保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」に肯定的評価をした保護者が60%以上。
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1: 保護者の学校評価アンケートの設問「学校は、地域の人材や施設を教育活動に生かしている」に肯定的評価をした保護者が60%未満。
プラン6 なごやかな学校と地域に家庭・地域が一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わられた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が90%以上。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3: 保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が75%以上。
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2: 保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が60%以上。
			1: 保護者の学校評価アンケートの設問「家庭は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している」に肯定的評価をした保護者が60%未満。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価